



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

# プロバスだより

## 第298号

2020 年 9 月 10 日発行

編集・発行：情報委員会

2020～2021年度 テーマ 「コロナから身を守る」「温故知新：ふるきをたずねて新しきを知る」

### 第 298 回例会

日 時：令和 2 年 8 月 13 日 (木) 12:00～15:00

場 所：八王子エルシィ

出席者：42 名、リモート出席者 2 名 出席率 79 %  
(会員総数 58 名、欠席 14 名、休会 2 名)

#### 1. 開 会 齋藤例会委員長

第 298 回例会開催を告げ、配付資料の確認。

#### 2. 会長挨拶 田 中 会 長

皆様、コロナ騒ぎの中ようこそお集まりいただきました。本日はこの会場にお集まり以外に、リモート参加も初めての試みとして、2 名参加して頂いています。憎きコロナは、夏場になったら少しは収まるかと思いきや、益々勢いを増していく状態。日本でも感染者が約 5 万人、全世界では実に 2,000 万人という驚異的な数字になっており、ひたすら自粛の毎日、今日は貴重な集まりです。休会にしておく方が無難ではありますが、我がクラブでは、厳密にルールを守ること、何とか集まっていただきました。その努力と結果を是としようではありませんか。



今年度の活動方針の一つに温故知新を挙げましたが、今日はこのクラブの発足当時のお話を聴かせてもらうことにもなっています。今秋の 25 周年記念行事をどうするかを検討課題も含めて、本日はどうぞ楽しくお過ごしください。

#### 3. ハッピーコイン披露

河合副会長からハッピーコイン 16 件の披露がありました。(6～7 ページに掲載)

#### 4. バースデーカード贈呈

8 月生まれの会員に池田会員手作りのバースデーカードが送られた。



写真 左から会長と竹内会員、久野会員

#### 5. 米寿の祝い

竹内賢治会員が八十八歳の米寿を迎えられ、プロバスクラブから、お祝金が贈られました。

#### 6. 幹事報告

持田幹事

1) 去る 7 月 15 日に田中会長が八王子市の石森市長へ就任のご挨拶に伺いましたので、同行した。



同時に、10 月 3 日の音楽祭をコロナの影響のために中止して、内容を変更し、簡易な行事「3 校へエールを送る会」にしたことの報告をした。市長にはご臨席及び祝辞を頂きたい旨も伝え、ご了承頂けた。

2) 8 月 6 日の理事会で、プロバスクラブとしての新型コロナ感染対策としての申し合わせをした。八王子市からの通知やガイドラインにそって当クラブとしての次の感染防止策を例会、同好会を含めすべての諸活動にて徹底するというもの。(マスク着用、手消毒、検温、距離保持、換気、会合は短時間 2 時間目安、など)

3) 本日、年間スケジュールを皆さんへ配布しました。

コロナ事情で日程は変更がありますので、最新情報を常に確認下さい。

4) 本日の例会は、初めての試みで2名にリモート参加してもらっております。まだ、トライの状態ですが、こうして参加して頂けますと、例会には出席したとすることにしようと、先週の理事会で決議致しました。ZOOMという会議システムです。(無料)

5) 「情報交信アンケート」のお願いを配布しました。皆さんの情報の受け取り方、発信の仕方を調査するものです。現在、コロナを機会にいろいろな行動様式、生活様式が変容しておりますが、如何に早く正確に皆さんと情報のやり取りができるかを工夫したい。その第一歩としての現状調査です。

## 7. 委員会活動報告

### (1) 例会委員会

齋藤委員長

特に報告する事項はありません。

### (2) 情報委員会

内山委員長

プロバスだより第 297 号をお届けしました。今月号は第 25 期定期総会と寄稿文がありましたので、8 ページ建てとなりました。7 月のプロバスクラブのホームページへのアクセス数は 264 件でした。掲載内容も更新しておりますので、一度アクセスしていただき、ご意見などありましたらお聞かせ下さい。



毎回お願いしておりますが、例会において発言された方には、発言要旨を委員会にお届けくださるようお願いいたします。

### (3) 会員委員会

岡本副委員長

特に報告する事項はありません。

### (4) 研修委員会

飯田委員長

研修委員会からは 11 月に開催予定の特別例会のお知らせをさせていただきます。内容は次とおりです。



野外例会から特別例会(第1回)へのお誘い。

～WITH コロナの時代だから～

満せられて！ 味せられて！ 魅せられて！

コロナ時代に私たちは心の安定する時間が持てません。この様な中で、第1回特別例会のご案内をいたします。従来からの野外研修の趣旨を残し、新たな「特別例会」を味わいませんか。

庭園が秋色に染まる“日本閣”で時宜を得た講演に惹きこまれる満足感、美味しい食事を味わい、心の琴線に触れる魅力的な朗読を堪能し・・・。

きっと皆さんの心を癒し、心豊かな充実した一日を過ごせることでしょう。ご参加をお待ちします。

### 《 特別例会のご案内 》

○開催日時 11月12日(木) 11時開会～16時閉会  
予定(10時30分「開場」)

○講演 11:10～大切な人を「守る」ために～コロナウイルスと日本人～

井上 栄 先生・・・国立感染症研究所名誉所員

○朗読 14:10～朗読の醍醐味を味わう～山本周五郎作「不断草」～

青羽美代子先生・・・朗読の第一人者

○会場 八王子“日本閣”(八王子市鎌水 530-2 電話：042-676-4122)

(「三密」を避けたゆとりスペース)

○アクセス 自家用車：無料駐車場あり

JR八王子駅南口から無料送迎バス運行

○会費 八王子プロバス会員 5,000 円、昼食付  
ご案内の方 3,000 円、昼食付

(事前登録“要”)

○申込締切 10月8日(木)(会員は会費徴収)

○問い合わせ 研修委員長 飯田富美子

### (5) 地域奉仕委員会

馬場委員長

地域奉仕委員会では、特にここ数年多くの課題が指摘されており何らかの対策が必要になっていました。このたび会長方針の温故知新をきっかけとして、この課題に取り組むべく「地域奉仕委員



会の今後の方向性」についての検討会を7月に2回開催しました。田中会長、河合副会長、持田幹事、杉山 25 周年事業委員長、21～25 期の地域奉仕委員長(永井、持田、一瀬、武田、馬場会員)の出席(一部は文書ベース)を得て活発な議論をして頂きました。

この検討会で集約された方向性について、地域奉仕委員会内での合意、次に例会での承認を得るべく準備中であります。

次に今期の「生涯学習サロン」のカリキュラムですが、未実施に終わった前期資産の活用を先ずチェックしました。活用できない3つのカリキュラムについては、八王子市の“日本遺産（桑都物語）”の「記念講演会」を追加して補うことを検討中です。

野外サロンについても24期の案に基づく再実施を目指しています。

## (6) 交流担当

### 一瀬理事

本日は2点報告いたします。まず全日本プロバス協議会関係であります。8月8日の五所川原総会が来年に延期になったことはすでに報告の通りですが、予算、役員選任など重要案件を書面議決方式で今月中に行う旨表明がありました。そこで田中会長が全日本の理事副会長に選任されることになると思われます。もう1点は他プロバスの情報であります。旭川プロバスクラブが本年末（12月）まで例会を含む全活動を休止するという事です。いろんな考え方があるという受け止めをしております。



## (7) 「宇宙の学校」

### 下山PJリーダー

特に報告する事項はありません。

## (8) 創立25周年記念事業実行委員会報告

### 杉山 友一

25周年記念事業につきましては、7月例会時の総会でご承認いただいたところですが、本日、例会終了後に当会場で「記念事業委員会」を開催いたします。ご案内済みの関係者はお残り下さい。

議題は1) 準備状況の確認、2) コロナ禍事情の中での緊急対応についてでございます。



<昼食・休憩>

## 8. 卓話

### 「ド素人の美術館巡り」

### 山野 稔

昨年3月イタリア映画「ナポリの隣人」を見たのがきっかけで、この年齢になって急に美術に関心を持ち始め、昨年のゴールデンウイークから展覧会巡りを開始した。ここ1年数カ月で殊に印象に残った3件についてお話しをさせていただきます。



(1) 春から夏にかけて見学した多くの展覧会で最も心に残ったものは横浜美術館30周年記念の催し物で「生誕150年、没後80年記念。原三溪の美術伝説の大コレクション」というタイトルの下に150点が展示されました。国立博物館所蔵の国宝で平安時代の「孔雀明王像」も展示されました。これは明治末期に原三溪が政治家井上馨から1万円で購入し原三溪の審美眼の高さを当時の美術界に見せつけた作品です。

横浜の大実業家原富太郎（雅号 三溪）。1868年（慶応4年）生まれ。美術収集家にとどまらず絵も書も文人（はだし）で彼自身の作品も多数展示されました。多くの若い画家のパトロンにもなり物心両面で支援をして育てました。日本画家の下村観山もその1人でした。又、明治時代の廃仏毀釈運動で壊されそうになった京都や鎌倉の有名な古いお寺の歴史的建造物を引き取り横浜三溪園（1906年）に移築しました。

本業は富岡製糸場や日本各地の多数の生糸工場を経営する大実業家でありながら大の美術収集家で茶人、そしてアーティスト。更には素晴らしい社会貢献活動家（フィランソロピスト）であったことを知り、大変感銘を受けた展覧会でした。

(2) 秋の展覧会では最も印象的だったのは10月12日～11月24日京都国際博物館で開催された、特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」。歌仙絵巻の最高傑作で、万葉の時代から平安中期にかけて活躍した36の歌仙を選んだ上下二巻の歌仙絵巻が完成したのは鎌倉時代中期。それを所蔵していた旧秋田藩主の佐竹家が財政難に陥り、歌仙絵巻が売りに出されたのは、第一次世界大戦が終りに近づいた1917年（大正6年）。金額37万5千円、今のお金に換算すると35億円。既に戦後不況が始まりつつある中で、単独で買取りを名乗り出る人は誰一人とし

ていませんでした。海外への流失を懸念した美術収集家で茶人の三井物産初代社長益田孝(雅号 鈍翁)と有力な古美術商が中心となり、財界人仲間と同じく美術収集家の団琢磨、岩原謙三、藤田彦三郎、原富太郎、野村徳七、住友吉左衛門等と言った錚々たるメンバーに呼びかけ、1919年(大正8年)12月20日 益田孝の御殿山の邸宅で協議を行いました。そして、そこで決定されたこと、それはなんと絵巻物を36枚に切断して、参加者に抽選で売却することでした。歌仙絵は歌人の官位の略歴・和歌一首・そして肖像画からなっています。抽選の結果 36枚の歌仙絵はそれぞれ新しいオーナーの手に渡りました。

新しい所蔵者達は競いあうかのように、大変高価な表具・表装を施し独自の趣向を凝らした立派な掛け軸を作り、茶室に飾り茶会を催し、仲間同士で展示しあいました。歌仙絵は新たな美術品に生まれ変わったのです。しかし、その後36の歌仙絵は数奇な運命と共に流転を重ねました。関東大震災・昭和恐慌・太平洋戦争・石油危機・バブル崩壊を経て、所蔵者の顔ぶれも徐々に変わって行きました。今現在20件は日本の各地の有名な美術館の所蔵で、残り16件は個人所蔵となっています。

この36の歌仙絵は関係者の努力と協力のお陰で「絵巻物切断の100年後 初めて平安の都に里帰りをした作品30点」が令和元年の2019年10月12日から京都国立博物館にて展示されました。会場に足を踏み入れた瞬間から、いつもの展覧会とは全く違う雰囲気を感じたのは私だけでは無かったようです。万葉の時代からの有名な歌人達がそこに静かに座り、あたかも歌を詠んでいる様な空気が満ち溢れていました。あの柿本人麻呂がいる、大伴家持が、山部赤人も、紀貫之も、小野小町も、藤原業平も、そして藤原敏行も。万葉集や百人一首の代表的な歌人がずらり〜と。会場は「静寂とため息」に包まれました。展覧会には佐竹本36歌仙絵のみならず、平安・鎌倉・室町・江戸時代の歌仙集・歌仙絵巻や屏風絵を含め合計137点が展示をされた大変豪華なものでした。私は息を呑みながら、音声ガイドを何度も何度も聴き直し、飽きる事無く実に4時間近くも見学してしまいました。帰り際には重くて厚い図録を購入しました。今でも手元に置いて時々眺めています。この歌仙絵、もし切断されずに絵巻物として残っておれば、間違い

なく「国宝」になったと言われています。尚、36枚は今ではほぼ全てが重要文化財に指定されています。

(3) 桃山時代から続く「楽焼」：楽焼は桃山時代の千利休の意を受け、初代長次郎が創設したもので一子相伝。直入氏は茶道三千家(さんせんけ)に茶碗を納める京都の楽焼の窯元の家生まれ、32歳で15代吉左衛門を継ぎました。印象的なことは

① 楽焼は何とも特殊な焼き物で轆轤(ろくろ)を使わず「手捏ね(てづくね)」で造形し鉄の篋(へら)で削り整える。建て込んだ京都の街中、「手押し鞆(ふいご)を取り付けた窯で一碗(わん)ずつ焼く。450年前と変わらぬ伝統の焼成方法で、昔からの自宅敷地の仕事場で今尚製作活動を続けていること。

② 直入氏と父親14代吉左衛門との確執。それは高校・大学時代にとどまらず、父親の下での修業中にも続きました。仕事場には2人だけ。父親は極めて厳しい人で「俺の仕事の仕方をしっかり見ておけ」と言うだけで、細い指導は一切せず、自分の真剣な仕事振り・仕事の手順を見せつけることで息子に楽焼を教えました。直入氏の話では「父親は仕事場では無言。2人の会話は無く、いつも息苦しくて窒息しそうだった」とのことです。

③ その父親が62歳という若さで急逝。直入氏は32歳で急遽15代目の家督を継いだものの、まだ自分の作品は世に出しておらずその後2年間の苦労を経て漸く34歳で「15代襲名披露の個展」を東京と京都で開催しました。

④ 父親(先代・隠居名は覚入)は「伝統とは決して踏襲ではない。時代に生き、己の世界を築き上げねばならない」と言うのが口癖でした。専門家によると「直入氏の造形は伝統に根ざしながらも現代性へと大きく踏み出し、新しい技法も取り入れ、彫刻的ともいえる‘前衛的な作風’を築き上げた」との評判。直入氏はいかなる工芸会にも会派にも属さず自主独立路線を貫きました。「時代に生き、己の世界を築き上げる」と言う楽家のDNAをしっかりと継承したのです。楽美術館の新春展覧会に2月29日、日帰りで京都に行き、展示された初代から16代までの代表作の茶碗を見学、茶碗に付けられた「銘」は万葉集の和歌から引用されたもので展覧会名「ことのはの宴」の意味するところが分かった気がしました。直入氏の父親が1978年に開館した美術館は小ぶりながらも立派。美

術館隣にある楽家の母屋は 150 年も前に再建されたもので大変風情があり、その母屋の一番奥の作業場で今なお 楽焼が 450 年前と同じ製法で作られていることに不思議な感慨を覚えました。尚、楽美術館の HP のキャッチフレーズは「手のひらの中の宇宙 楽焼」。スクリーンに写し出された 450 年前の初代長次郎の作品・黒焼茶碗の内側の底をじっと眺めていると正に「宇宙そのもの」。一度 HP にアクセスしてみて下さい。

(4) 終わりに、昨年 4 月からの無手勝流の美術館巡りを振り返り、今思うことが二つあります。一つはド素人として、初めて真面目に真剣に美術に接してきた訳ですが、「美術は確かに心の栄養になる」と思えて来たことです。気に入った作品に出会うと更にもう少し深く知りたくなる面白さを見つけたのかもしれませんが。もう一つは、今後はあれもこれも見学するやり方を改めて、展覧会の名前(ネーミング。キャッチコピーとでもいうのでしょうか)にもう少し拘りたい。「ロマンを掻き立ててくれるネーミング(名前)の付いた展覧会」を中心にしながら、美術館巡りを楽しんで行きたいと思っております。

## 9. 25周年を振り返って

### 例会委員会初代委員長 立川 富美代

東京八王子南ロータリークラブにお誘いを受けてプロバスクラブに入会致しまして 25 年が過ぎました。プロバスという言葉も中身も何も知らないで、最初の 1 年は 33 名の仲間と共に、クラブ理念であります「親睦と社会奉仕」の勉強をいたしました。



創立当初の例会委員長として、会員全員が笑顔で例会を進められる事に腐心いたしました。長年企業戦士として来られた男性仲間はやはり飲み会などのコミュニケーションを取ることが得意でしたので、出来るだけその様な会を持ち、どんどん仲間意識を高めることにしました。

旅行も仲間作りのツールとしては最上で、機会を作り旅行もしました。それもただ温泉だけでなく、行った先のクラブを探して楽しい交流をしました。特に京都プロバスと旅行途中でランチ交流をした時に、

京都の会長とこちらの佐々木研吾元会長とが高校の同級生、しかも野球選手として共に励んだ仲間であることを知りました。プロバスクラブの活動が繋いだ素晴らしい思い出です。その後も全日本プロバス協議会の総会+旅として日本中に行きたくさんの会員が楽しみ、他クラブの人達と交流が出来ました。

行事も色々ありその度に会員が参加して、仲間と共に力を合わせる事、達成の喜びを得ました。特に周年行事は 5 周年、10 周年、15 周年、20 周年と関わりましたが、思い出深いのは 10 周年です。陸上自衛隊東部方面音楽隊が八王子市民会館に来て下さり、素晴らしい演奏は満員の市民の皆様に感動を与えました。おまけに音楽隊がプロバス賛歌の伴奏譜を作ってくれて下さり、現在毎月のプロバス賛歌は素晴らしい伴奏で歌っています。我がクラブの周年行事はクラブ内だけでなく、市民の皆様に喜びと楽しみを送ると言う意義のある活動です。

地域に奉仕と言う活動も、学習サロンは本年 25 回を迎えます。毎年担当委員会が主となり、全員で地域に奉仕して年々参加者が増えています。青少年に向けた「宇宙の学校」も 10 周年を迎えて子供たちに夢を与え続けている活動です。

25 年間元気に楽しくクラブ活動をする事が出来ましたこと、支えて下さいました仲間に感謝を申し上げます。

## 10. 同好会活動報告

### 「お茶の会」

### 阿部 治子

お茶の会同好会は平成 15 年 3 月に発足しました。

月 1 回宗徧流を学びました。楽しみながら、お菓子、お茶を頂きながら、季節の掛軸、茶花、茶碗、茶杓等の道具の由来を学びながら、日本文化に親しみました。



平成 18 年「学習サロン」で茶会を開催することが出来ました。当時、研修委員長であった塩澤会員を中心に、今は亡き野口正久、岩岡茂之、近藤泰雲、北川博孝、須藤英雄、川村真の各会員達の茶の湯に対する誠心は、私自身、心をうたれました。きっと、泉下の客となり、一同茶の湯を楽しんでいることでしょう。

平成 19 年、平成 23 年には「一期一会を楽しむ会」

を、また、平成 25 年には「ひとときの煎茶の世界」を「学習サロン」で開催することが出来ました。

今後は、春、夏、秋、冬の適切な時期を選んで年 4 回ほど茶会を開き、会員の皆さま方と茶の湯を楽しみたいと考えております。

是非、一人でも多くの方々に、参加いただけるような企画をたて実行できるようにしたいと思っております。

## 11. その他 特になし。

## 12. プロバス賛歌 演奏のみ。

## 13. 閉会

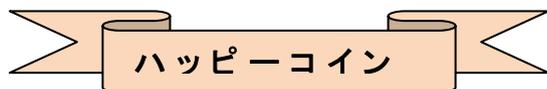
例会の最後にプロバス賛歌が流れました。久しぶりに耳にしますがいいもんですね。また来月に向けて、元気をもらったような気がしました。

本日は 12 時から 2 時間、充実した内容の例会でした。コロナ対策に配慮されての会場設営、各役員の方々の皆さまのご尽力に感謝します。

体温を超えるような猛暑が続いています。加えてコロナ感染の増大。皆様には十分健康に気を付けられ、また来月元気にお会いしましょう。

以上で本日の例会を閉会します。お疲れ様でした。

### 河合副会長



◆久しぶりに銀座へ。映画を観て食事をして買物。1 月以来の映画。やっぱり映画はいいですね。

野口 浩平

◆「リモート」でプロバス例会。こんな時が来るとはついぞ思わなかった。いろんなことにトライすることは非常に良いことだと思います。変化への柔軟な対応を。

一瀬 明

◆コロナとこの暑さ、大変な夏ですが、プロバスの皆様お元気で何よりうれしく思います。自粛でお出かけすることが、逆に大変に感じます。コロナ、暑さに気をつけてがんばりましょう。

宮城 安子

◆例会で皆様にお会いできて Happy。

下山 邦夫

◆幹事から提示された「八王子ルール」とでも言うべき例会感染対策条項、全員で守って With コロナのプロバス例会でありたい。

一瀬 明

◆終戦時小学 4 年(9 歳 10 ヶ月)であった。あれから 75 年よく生きてこられた。今 85 歳(10 月)でも、あまり年を意識しなかったというか、なるようになると、生きてきたことが良かったのかも知れない。

土井 俊玄

◆今年 4 月に修行のため上山(大雄山最乗寺)した孫が、100 日間の禁足がとけて、18 日に 2~3 日の休暇で帰ってくる。少しは成長したか楽しみです。

土井 俊玄

◆猛暑とコロナ禍の中でみなさん健康にご留意されてお過ごし下さいますように御祈念申し上げます。

飯田 富美子

◆厳しい日差しによる暑さを軽減させるためには、プライドを捨て、強い力を出し野獣的な体力作り、野良仕事を行ない、終了後、シャワーを浴びさっぱりして、旬の枝豆で、冷酒をグイーと五感で楽しむ真夏の夕暮れ Happy。

荻島 靖久

◆記録的猛暑の中、又コロナ騒ぎの収まらない中、ようこそお集まり頂きました。又、出席を見合わせられた会員も含めて皆様方の健康をお祈りして。

田中 信昭

◆コロナ感染が収まりません。例会も安心、安全を最優先に考えています。コロナ禍で快適な環境ではありませんが、少しでも Happy な例会を目指したいです。何か気になることがありましたら、持田まで連絡ください！

持田 律三

◆75 年前の 8 月 2 日未明、米軍 B29 爆撃機 169 機が八王子に襲来、1,600 トンの焼夷弾が投下され市街地全滅、13 日後には日本敗戦だ。今こうして平和な時代に生きていることの幸せに感謝、感謝！！

杉山 友一

◆家族が集まる時季ですが、今年はコロナを避け Line 上で 4 元ホームパーティをしました。老夫婦にとって良いプレゼントでした。

橋本 鋼二

◆8 月 5 日満 88 歳の誕生日を迎えました。過去 3 回の死線を乗り越えて米寿を迎えることが出来ました。感謝、感謝。

竹内 賢治

◆プロバスの皆さんがコロナと猛暑に負けませんように願って！  
有泉 裕子

◆元気に例会に参加してハッピーコインを申告できることの幸せ。炎暑とコロナを乗り切ろう。皆様の健康を願って。  
河合 和郎



### ヨーロッパ誌上観光

間宮 敏明

現在、コロナ禍で外国への観光は無理ですが、私が数年前に団体旅行に行ったことを思い出しながら、誌上で、ヨーロッパを駆け足で紹介させていただきます。



#### (1) オーストリア

##### (ウィーン、ザルツブルク)

ウィーンはご存知の通り、音楽の都で美しい街でした。市民公園にはヨハンシュトラウス 2 世の金色の像が立っており、観光客も多く、音楽の街を象徴している感じがありません。



ウィーンは東京の特別区と同じ 23 区の行政区に分割されていて、その区毎に地ビールを醸造しているとのことでした。いくつか飲んでみたら、凄く美味でした。

夕飯を食べるべく、電車を利用して街中に出たが、切符を買ってホームに入る際、改札が無くフリーで通れるようになっていたのには驚きました。

ただ、時々、抜き打ち的な改札をすることと、その時に見つかる多額の罰金を支払う羽目になるとのことでした。

シェーンブルン宮殿(一時期ヨーロッパの大貴族ハプスブルク家の夏の離宮・17 世紀)の宮殿と庭園の大きさには驚かされたが、庭園の両側に高木が立ち並び、その枝と葉が日本の整理された庭の生垣のように、きれいにカットされていて、数百メートルに及ぶ庭園の長さの分だけ続いてそそり立っていま

す。日本では見たことがない風景でした。

宮殿の中の絵画に、コロシウムのような観客席と、中央には貴族などが長い大きなテーブルを囲んで食事をしている様子が書かれていて、これは何の絵か？ 尋ねると、貴族などが結婚の際に行う宴を庶民が見ている「披露宴」を



表現しているとのことでした。日本で行われている「披露宴」の原形であります。

また、オーストリアがフランスとの戦争で、ナポレオンから攻められる際、どうやって防戦するかを戦々恐々としながら会議を続けたが、結論が出なかったという会議部屋を見たが、結論の出ない会議を延々と続けることを「会議は踊る」と揶揄されたとの事。このフレーズも日本でも使われております。

文化のつながりの深さを改めて認識したものであります。

ザルツブルクは文字通り岩塩を産出した地域であり、又モーツァルトが生まれ、幼少期に育った街とのこと。天才が育った土地は自然が美しいといわれるが、この街を囲む自然はとても美しいと思いました。

#### (2) ドイツ (ミュンヘン)

ドイツでは白鳥城(ノイシュバンシュタイン城・19 世紀)を見ましたが、この城は約 130 年前に建設を始めたが財政難で



未完成のまま、という。未完成とは思えないほど綺麗で、おとぎ話に出てくるようなお城でした。

余談ではありますが、この城の下に広がる広大な草原は、スティーブマックイーン主演の「大脱走」の撮影現場で、マックイーンがバイクで脱走しているシーンはこの地でありました。

#### (3) オランダ (アムステルダム、ロッテルダム)

アムステルダムは昔からの面影が残る建物が多い街でしたが、ロッテルダムは港町で近代的な建物が多い街でした。アムステルダムには「飾り窓の女」の

舞台があります。

オランダはご存知の通り、海抜が低い土地が多く、長い年月をかけて埋め立てを進め国土を広げてきた国。貴重な国土であり、自分の国を大事にしている様子が解ります。

夜間にバスで住宅街を回る機会があったが、個人の家の窓辺にはきれいな花が飾られていて、電気を照らして、さあー、見てください、というような見せ方をしております。

観光立国の側面もあり、国を挙げて観光客を大切にしている様子が解ります。

次に、古いマンションはくっついて建てられているが、その建物は(日本では垂直に建てられるのが当たり前)上階のほうが前に倒れるように、そり曲がって建っているのです。その理由を聞いたら、階段が狭いので上階の部屋に家具を運べない為、屋上に滑車を付けて、外から目的階まで釣り上げるのだが、その際家具が建物にぶつからないように工夫して建てているとの事。これも驚きました。

#### (4) フランス (パリ)

フランス観光の代表的な場所として、凱旋門を臨むシャンゼリゼ大通りを歩きました。ヨーロッパの街には凱旋門が少なからずあります。

長い歴史の中では、私が言うまでもなく戦争が多かったが、戦勝の際に凱旋するときのイメージが浮かんできます。

#### (5) 石の文化と木の文化 国に対する国民の意識

ヨーロッパの国、街、宮殿、芸術、文化、生活にわずかの時間ではあったが、触れたことで、数百年前の建物を今も改造しながら使用している石の文化と、日本の木の文化との違いを改めて認識したものです。

オランダで埋め立てて国土を創出したり、領土を侵略し合ったヨーロッパの長い歴史から考えても、自分の国を持つことの大切さを身に染みて知っており、「国土を、国を、愛している」様子が痛いほど伝わってきました。日本では「国を愛している」といえる人はどれ位いるのでしょうか・・・。

市内の鉄道の改札がフリーであることや横断歩道の信号の少なさ等を見て、歴史的に何事においても国の強い指導により発展してきた日本とは異なり、国民がそれぞれ「自己責任」意識を持っているヨーロッパ諸国を改めて認識したものであります。

### 俳句同好会便り

#### 私の一句〈八月の句会から〉

河合和郎

“危険なレベルの酷暑に注意”とテレビのテロップ。コロナと酷暑の板挟みで我慢一途な毎日だが、せめてもの救いがこの句会なのである。

蝉生まる鎧残して旅に立つ 野口 浩平

蝉の一生のほとんどが地中。生まれて飛び立って一週間余りの命。蝉の旅立ちは終の旅路でもある。

傘寿とは雨傘日傘歳の嵩 東山 榮

傘寿とは80歳のこと。一句の中に「カサ」を4つ揃える発想はとて御年米寿とは思えない冴え。

細波を引いて軽鳧の子田草食み 矢島 一雄

水田の管理に軽鳧農法がある。田圃の草をカルガモに食わせてしまう方法。上手く一句にまとめた。

蜘蛛の罫の乱れがちなる網目かな 池田ときえ

蜘蛛の巣は抽象芸術のように美しい。雨風などで傷み易いが、乱れた様子も一編の詩となる。

潮風にびんと張られて蛸干さる 田中 信昭

お馴染のユーモラスな光景。明石の浜の一景とか。タコ飯の美味を思い出させる一句でもある。

親し友父を語らず終戦忌 下山 邦夫

今年は75回目の終戦日。過酷な戦争体験を持つ父とその息子。戦場の真実を伝えるのは難しい。

お通りだカルガモ親子の引つ越しだ 間宮 敏明

テレビ等で見かける微笑ましい光景。みんな無事に育てよとの作者の温かい眼差しに見守られて。

凜として季を知らせる蓮の花 飯田富美子

端正な蓮の花の咲く様子を一句に。大賀蓮は二千年の時を経て蘇った。正に凜とした力強さである。

読経終へ和尚おもむろ夏マスク 馬場 征彦

酷暑の中のお盆。コロナ騒動の中の檀家まわりの和尚さん。この夏、マスクは絶対に欠かせない。

共白髪それぞれにある夜長かな 河合 和郎

それぞれの趣味の世界に没頭していれば、秋の夜長も平穏無事。付かず離れず喧嘩せず、が一番。

#### 編集後記

投稿記事を掲載しましたので、8ページ建てとなりました。 情報委員会 内山雅之